

三井金属：知的資本（知財・無形資産）の進化と価値創造ストーリーへの統合

2023年：統合思考経営を支える「基盤整備」

2024年：知財活動と人的資本の「具体化・可視化」

2025年：価値創造プロセスへの「戦略的統合」

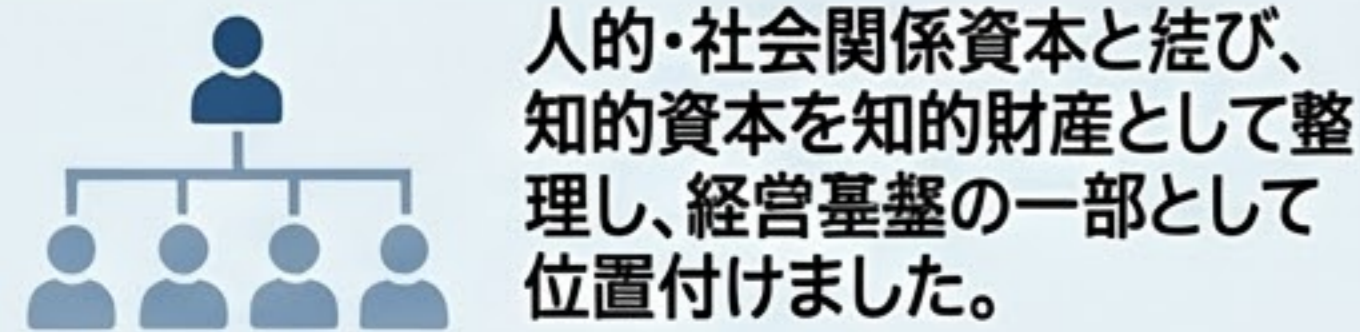


基盤 (Foundation)

知財マネジメントの組織再編



知的資本をマテリアリティ推進の資本と定義



ガバナンスと開示の強化

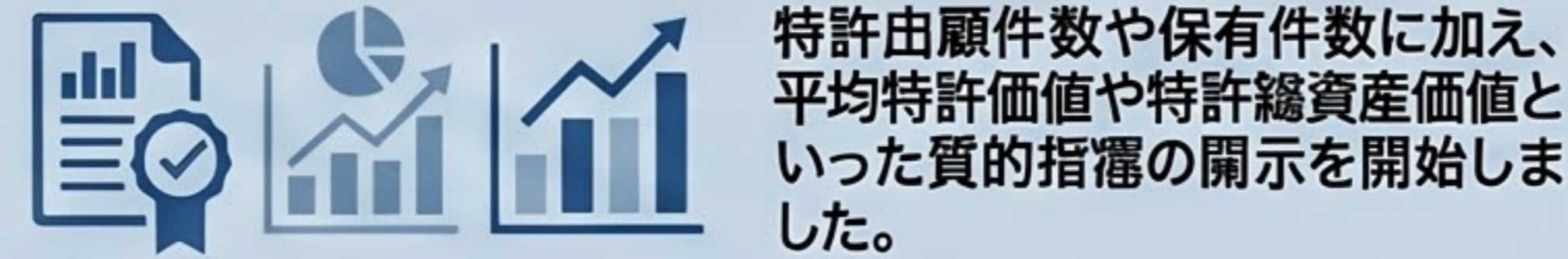


取締役会との対話やIPランドスケープの活用を通じ、社内外への情報発信と価値向上に向けた土壌合作を優先しました。



具体化 (Concretization)

知財ポートフォリオの定量化



「人と知財」の循環関係を明示



「人が知財を生み、生み出された知財を人が使う」という人的資本まとの密接なつながりを、研修体系の整備と共に示しました。

知的資本の呆一共共の知財と整壁を使う、人的資本に密接に合わせた知財戦略を具体化しました。

事業本部別の取組み深化



事業創造本部(価値の育成)と機能材料事業本部(価値の拡大)のそれぞれに合わせた知財戦略を具体化しました。



統合 (Integration)

Input資本としての明確な位置付け



価値創造プロセスにおいて、知的資本を財務・製造・人的資本等と並ぶ中核的なInput資本として配置しました。

「両利きの経営」の駆動



培ってきた技術と「マテリアルの知量」を源泉に、知の探索(新規創出)と知の深化(競争優位)のサイクルを固すストーリーを確立しました。

DX・AIとの高度な融合



生成AIやMI(マテリアルズ・インフォマティクス)を活用した材料探索、探索データの真実化など、デジタルを知的資本の実装手段として本格展開しています。

	2023年度	2024年度	2025年度
位置付け	基盤・ガバナンス	深業となる資本の具体化	価値創造プロセスのInput
主なテーマ	組織両価、情報発信	特許価値指標、知財商標	25中計、経営戦略連携
人的資本	価値最大化の前段	知財生成・活用の基盤	組織文化・行動規範の創設
DX-データ	ICTリテラシー教育	AI教育、社外共創	生成AI・MIによる材料探索